

すぎなみ大人“熟”してる？

Jukusiteru? TIMES'13

平成25年11月30日発行

発刊元：塾熟出版（事務局）

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

VOL.11

コースガイダンス・自己紹介と自分のまち紹介

11月11日
月曜コース

「だがしや楽校」ってなに？



「永福だがしや楽校を開こう！」スタート！

いよいよ始まった第1回後期月曜コース。永福和泉地域区民センターに集まったみなさんの目は、「『だがしや楽校』って何をやる講座なんだろう」という期待と不安が見え隠れするようだ。まずはこのコースについて学習支援者である松田さんのご説明。「自分の持ち味を通して、人と人が関わることのできる場を一緒に作り上げていきます。毎回の講座では、どんなものでも構いませんので、自分を紹介できるものをお持ち寄りください。それを見せ合いっこやおすそ分けしながら、みなさんとこの講座をつくっていききたいと思います」。

今回松田さんは、他の地域で開催されているだがしや楽校()からのおすそ分けで、“卵の殻で作ったアクセサリー(下写真)”や“黒糖をまぶした「かんびょう」(下写真)”を持ち寄られた。また、学習支援補助者の谷原さんは、卒業生の得意技“リングサント(下写真)”を紹介。持ち味はどんなものでもいいのだ。

栃木県下野市<しもつけ大人塾>、静岡県焼津市<港町やづだがしや楽校>など



松田道雄氏
学習支援者

谷原博子氏
学習支援補助者

新たな人との出会い

「多くの人に影響を与えた吉田松陰やソクラテスを知ると分かりますが、教育の効果というのは、ここに何人集まったかでなく、みなさんがここにいない方とどれだけの人と関わったかということなのですね」と、松田さん。これからの講座では、まちなかに出ることも増えてくる。そこでは、“新たな人との出会い”も多いが、そのはじめの一步はここに集ったみなさん同士だ。参加者自己紹介では、お菓子や料理が得意/スポーツ(体操)をしていた/前期と後期を結びたい/小学生との遊びから学びたい/高齢者でなく、好(幸)齢者を目指す/毎日の夕飯づくりを活かして料理/地域を生き生きとしたい/ママによる吹奏楽団をつくりたい/料理教室をしている/人の和を大事に、と様々な人が集っていることが分かる。この講座を通してどれだけ多くの人と出会えるだろうか！ 坂

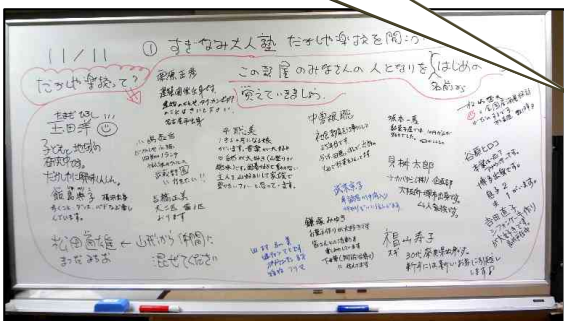


自己紹介を寄せ書き
風に書きました

《すぎなみ大人塾発「駄」の文化》

駄菓子屋の「駄」の字を広辞苑で引くと、“荷物を運ぶための馬。また、乗馬にならないよくない馬”とある。転じて、つまらないもの、粗悪なものという意味で使われている。なぜ良くない意味である「駄」をあえて講座名につけているのだろうか。

このことについて、「...たくさんの試行錯誤の中から最も効率的なものが『標準』になると、他はすべて『駄』として排除されます。『標準化』は多様性を消し、そしてさらなる試行錯誤さえも消していきます」と松田さん。自分と仲間でも何度も試行錯誤、ここから学べるのがすぎなみ大人塾。「まずやってみる」は無「駄」じゃないのだ。



まちなかアート発見!

～自分の言葉でアートを語る
自分の足でアートを探す～

▶ 1: ツナガリを探る

学習支援者
日沼 禎子さん

大人塾土曜コース、第1回目のテーマは「自分と仲間を知り、そのツナガリを探る」だ。机のない開放的な会場、学習支援者の日沼さんと坂田さんを囲み、今回の講座のきっかけとなる「ツナガルシクミ」についてお話を聴く。メインの「三角インタビュー」では、訊き手、話し手、聴き手の三人組に分かれて8分間ずつ役割をくるくる交換。訊き手は新聞記者になりきり、せっせと訊き込み開始! 総勢20人の受講生の中に坂田さんも交じっての三角インタビュー。最初はぎこちなかった雰囲気、時間が経つにつれて次第にうちとけていく様子がうかがえた。三角インタビューには「その後の会話がはずむよいきっ



学習支援者
坂田 太郎さん

▶ 2: コミュニティアートの「ツナガルシクミ」を知る

三角インタビューの熱も冷めやらぬまま、一行はバスに乗り込む。ゆらゆらバスは進み、40分もすれば個性豊かなビルが目に入る。アサヒスーパードライホールだ。昼食のハンバーグをみんなでおいしくいただいたあと、アサヒ・アート・フェスティバル(AAF)の報告会場へ。全国の様々なまちおこしやアートイベントの実践を、飲み物を飲みつつのんびり聴く経験は、受講生に大きな刺激となったようだ。「全国各地で多種多様なアートを通して“つながり”を発見できたように思う」「アートが地域活性につながるということは想像していなかったの、今回の発表には驚きでした」という感想をはじめ「来年は

ツナガルシクミ
11月16日
土曜コース
研 究 部

けとなった」「楽しかった」という感想が続出! 今回の記事の入稿は次回までの宿題! どんな紹介記事が生まれるだろうか。和やかな雰囲気を残しつつ一行はアサヒ・アート・フェスティバル報告会会場へ向かうのであった。

AAFへ大人塾で参加したい! という意気込みあふれる感想まで、これからのツナガルシクミにさらなる期待が高まった遠足なのであった。
(文章: 瀬山)



AAF 会場での報告会模様



報告会後のプチ感想共有会



いい顔を頂戴しました @スーパードライホール前

■ 大人塾を支える「おとな」たち②

大人塾を支える個性ゆたかな? 事務局スタッフのご紹介!

月曜コース担当
土曜コース担当

月 土 松坂 哲夫

通算杉並歴は半世紀? 子どもの頃は善福寺川でザリガニを釣り、防空壕跡を探検しました。🔥と湯上り麦酒を求めて全国の温泉・居酒屋を探訪しています。杉並の未知なる魅力を皆さんと発見したいと思います。

月 梶山 寿子

街歩きが好きな35歳です。自宅のある練馬区から善福寺公園や和田堀公園まで主人と一緒に歩きます。いつも通り過ぎる場所も歩くと色々発見があって楽しいですよ!

土 湊 真澄

長年従事し、大人塾が身体の一部になっているようでコワイです。実は結構病弱で、病気のスーパーマーケットを名っていますが、外見は妙に明るいです。楽しい半年にしましょう! つぶあんこの会メンバー募集中!

月 坂本 一馬

熊本県出身、杉並歴は在勤2年目です。幼いころからサッカーをしていますが、最近ではもっぱら観る専門です。ひいきのチームを応援しながら、土地土地のご飯や銭湯、景色を楽しんで回っています。

土 瀬山 岬

勤務を始めて早半年、ピチピチさを保つのに必死です。格闘技と体操部で鍛えた腹筋はもはやユルユルで保てていませんが、保てなかった分をみなさんとの「学び」と「発見の喜び」という違う形で補給したいです。

□すぎなみ大人「熟」してる?の発行にあたって□

この新聞は事務局スタッフの独断と偏見と多少の事実に基づき作成しております。